

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	ヴォーカリストコース
授業科目	アドバンスレッスン1
必選	必
年次	2年次
実施時期	前期
種別	実習
時間数	120
単位数	4
担当教員	尾崎 久美子/横山 愛実/大山 桂祐/MALIYA/大森 裕斗/三上 かおる/Haruna
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン
授業概要	発声法をマスターし、さまざまなジャンル、スタイルをこなせるヴォーカリストとしての幅を広げます。
到達目標	幅広いジャンルの課題曲をバンドアンサンブルと共に学習することによって、バンドアンサンブルと合唱をより良くするために考察、周りの音をよく聴きながら歌い、最良の合唱となるためのコミュニケーション能力も体得する。卒業公演でステージに乗ることを目標とする。
授業方法	柔軟かつオリジナルな演奏者を目指すための考察を深める。バンドアンサンブルとのコラボレーションによる共創型課題も適時実施する。
成績評価方法	試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)
履修上の注意	この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度(居眠り、私語など)にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	適時、講師より教材を配布する。

授業計画	
第1回	スキルチェック(1) 一人ずつ歌い、各自ヴォイストレーニングでの課題を決めることができる。
第2回	ウォーミングアップ、一年次の復習(1) 腹式呼吸の習得。ハミング、リップロール、舌のストレッチ
第3回	ウォーミングアップ、一年次の復習(2) 声帯の動きや構造を理解し、「地声」「裏声」「ミックスボイス」を耳でもわかる。
第4回	リズムトレーニング(1) メトロノームを使いトレーニングを行い、16ビートを習得する。
第5回	リズムトレーニング(2) 4ビート、8ビート、16ビートの違いを身体を使って習得する。
第6回	歌うために必要な声帯、声帯周りの筋肉の動かし方を学ぶ(1) 主に地声の発声を習得する。
第7回	歌うために必要な声帯、声帯周りの筋肉の動かし方を学ぶ(2) 主に裏声の発声を習得する。
第8回	共鳴、発音 母音と子音の発声上の役割の違いを理解し、発声に活かすことができる。
第9回	音域拡大のメソッドを学ぶ(1) 長期的な声のトレーニング法がわかる。
第10回	音域拡大のメソッドを学ぶ(2) 長期的な声のトレーニング法がわかる。
第11回	音域拡大のメソッドを学ぶ(3) 長期的な声のトレーニング法がわかる。
第12回	ボイストレーニングにおけるスケール練習(1) 音程をしっかりと理解した上で、正しい音程をとることができる。
第13回	ボイストレーニングにおけるスケール練習(2) 1オクターブ半のスケールを使って各度数の間隔を感じながら歌うことができる。
第14回	復習(1) 前期のトレーニングを復習し、ここまでの成果を理解出来る。
第15回	まとめ 前期全体の振り返り

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	ヴォーカリストコース
授業科目	アドバンスレッスン1
必選	必
年次	2年次
実施時期	前期
種別	実習
時間数	120
単位数	4
担当教員	尾崎 久美子/横山 愛実/大山 桂祐/MALIYA/大森 裕斗/三上 かおる/Haruna
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン
授業概要	発声法をマスターし、さまざまなジャンル、スタイルをこなせるヴォーカリストとしての幅を広げます。
到達目標	幅広いジャンルの課題曲をバンドアンサンブルと共に学習することによって、バンドアンサンブルと合唱をより良くするために考察、周りの音をよく聴きながら歌い、最良の合唱となるためのコミュニケーション能力も体得する。卒業公演でステージに乗ることを目標とする。
授業方法	柔軟かつオリジナルな演奏者を目指すための考察を深める。バンドアンサンブルとのコラボレーションによる共創型課題も適時実施する。
成績評価方法	試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)
履修上の注意	この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	適時、講師より教材を配布する。

授業計画	
第1回	課題曲「風のゆくえ」を使って、曲のアナライズをして目標を明確にする。
第2回	課題曲「風のゆくえ」を使って、歌うために必要な呼吸の説明（腹式呼吸、ブレスの位置の確認）
第3回	課題曲「風のゆくえ」を使って、ビブラートのトレーニングを学ぶ。
第4回	課題曲「風のゆくえ」を使って、ロングトーンを安定させるトレーニング。
第5回	授業内発表
第6回	課題曲「September」を使って、英語の発音を学ぶ。
第7回	課題曲「September」を使って、裏声を出す（ファルセットとミックスボイスの違いなど）
第8回	課題曲「September」を使って、リズムトレーニングをする。（表拍と裏拍）
第9回	課題曲「September」を使って、自分の音域を確認し音域を広げるトレーニング（ヘッドヴォイス）
第10回	授業内発表
第11回	課題曲「帰ろう」を使って、曲のアナライズをして目標を明確にする。
第12回	課題曲「帰ろう」を使って、地声と裏声の切り替えを学ぶ。
第13回	課題曲「帰ろう」を使って、抑揚の付け方を学ぶ。（ダイナミクスをつける）
第14回	課題曲「帰ろう」を使って、オリジナリティを出せるよう表現方法を学ぶ。
第15回	期末試験

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	ヴォーカリストコース
授業科目	アドバンスレッスン1
必選	必
年次	2年次
実施時期	前期
種別	実習
時間数	120
単位数	4
担当教員	尾崎 久美子/横山 愛実/大山 桂祐/MALIYA/大森 裕斗/三上 かおる/Haruna
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン
授業概要	発声法をマスターし、さまざまなジャンル、スタイルをこなせるヴォーカリストとしての幅を広げます。
到達目標	幅広いジャンルの課題曲をバンドアンサンブルと共に学習することによって、バンドアンサンブルと合唱をより良くするために考察、周りの音をよく聴きながら歌い、最良の合唱となるためのコミュニケーション能力も体得する。卒業公演でステージに乗ることを目標とする。
授業方法	柔軟かつオリジナルな演奏者を目指すための考察を深める。バンドアンサンブルとのコラボレーションによる共創型課題も適時実施する。
成績評価方法	試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)
履修上の注意	この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	適時、講師より教材を配布する。

授業計画	
第1回	自己紹介、課題曲の構成の確認、パート分けをする
第2回	発声練習、パートごとに譜読みをする、耳で覚えていく
第3回	発声練習、リズムに気をつけて歌う
第4回	発声練習、パートごとに分かれて音を確かめ合う
第5回	発声練習、パートごとに歌唱し発表する
第6回	数チームに分かれて練習する
第7回	曲を通して合わせてみる、リズム、ダイナミクスをチームごとで意見を出し合う
第8回	各チームで歌唱発表する
第9回	パフォーマンスを学ぶ
第10回	各チームで分かれて曲に対してのアナライズをさせる、意識してチーム練習
第11回	リズム、ダイナミクス、パフォーマンス全体の確認
第12回	リズム、ダイナミクス、パフォーマンス全体の確認
第13回	曲を通して合わせる
第14回	授業内発表
第15回	前期のまとめ

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	ヴォーカリストコース
授業科目	アドバンスレッスン1
必選	必
年次	2年次
実施時期	前期
種別	実習
時間数	120
単位数	4
担当教員	尾崎 久美子/横山 愛実/大山 桂祐/MALIYA/大森 裕斗/三上 かおる/Haruna
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン
授業概要	発声法をマスターし、さまざまなジャンル、スタイルをこなせるヴォーカリストとしての幅を広げます。
到達目標	幅広いジャンルの課題曲をバンドアンサンブルと共に学習することによって、バンドアンサンブルと合唱をより良くするために考察、周りの音をよく聴きながら歌い、最良の合唱となるためのコミュニケーション能力も体得する。卒業公演でステージに乗ることを目標とする。
授業方法	柔軟かつオリジナルな演奏者を目指すための考察を深める。バンドアンサンブルとのコラボレーションによる共創型課題も適時実施する。
成績評価方法	試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)
履修上の注意	この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	適時、講師より教材を配布する。

授業計画	
第1回	バンドアンサンプルの各楽器を知る、機材を学ぶ
第2回	バンドアンサンプルの各楽器を知る、機材を学ぶ課題曲 1 のピアノ伴奏からバンドアンサンプルとなったときの音の違いを体感する
第3回	課題曲をバンドアンサンプルと共に歌う（前奏、間奏、アウトロー等構成を覚える）
第4回	課題曲をバンドアンサンプルと共に歌う（ダイナミクスを意識する）
第5回	課題曲をバンドアンサンプルと共に歌う（スタッカート、タイ、リズムキープ）
第6回	課題曲をバンドアンサンプルと共に歌う（パフォーマンス）
第7回	課題曲をバンドアンサンプルと共に歌う（各パートの音をしっかり確認）
第8回	課題曲をバンドアンサンプルと共に歌う（前奏、間奏、アウトロー等構成を覚える）
第9回	課題曲をバンドアンサンプルと共に歌う（ダイナミクスを意識する）
第10回	課題曲をバンドアンサンプルと共に歌う（スタッカート、タイ、リズムキープ）
第11回	課題曲をバンドアンサンプルと共に歌う（パフォーマンス）
第12回	課題曲をバンドアンサンプルと共に歌う（各パートの音をしっかり確認）
第13回	課題曲をバンドアンサンプルと共に歌う（16分のリズムトレーニング）
第14回	課題曲をバンドアンサンプルと共に歌う（リハーサル）
第15回	前期のまとめ